

2017(平成29)年度

札幌学院大学経済学部公開講座 経済学特別講義C '17年9月22日(金)~'18年1月19日(金) [全15回]

総合
テーマ

北海道における1次産業の現状と課題

北 海道における1次産業が経済に与える影響は、他地域に比べて大きく、1次産業の衰退は北海道経済の衰退につながる大きな問題です。一方で、グローバル経済のもとでは自由貿易が重要視され、TPPやEPAなどに積極的に参加しようという動きもあり、これらが日本の1次産業に与える影響は大きいとされます。また、国内に目を向ければ離農や後継者不足といった人的資源の問題、北海道に限っては経済的な価値があるものを生産、販売するといった点についての問題などもあります。

これらを解決する方法として、よく耳にするのが、農産物のブランド化、6次産業化、海外への輸出、営農方法の改善などがあげられます。今回の経済学特別講義では、農業、林業、漁業の現状を知るとともに、この厳しい環境の中での取り組みや今後の展望について、1次産業にかかわる生産者、加工業者、流通業者の方々を講師に招いてご講演いただき、今後の1次産業のあり方を考えて行きたいと思っています。

受講料無料／事前申込不要 受講ご希望の方は、当日直接会場までお越しください。

第1回 9月22日	統計でみる北海道の1次産業 山田 智哉 ●札幌学院大学 教授	第8回 11月17日	変貌する北海道産小麦需要 安孫子俊之 ●江別製粉株式会社 代表取締役社長
第2回 9月29日	十勝川西長いもの挑戦 ～一貫した品質管理が海外市場で通用するブランド力をつくる 常田 馨 ●帯広市川西農業協同組合 青果部長	第9回 11月24日	食育、農業の現場より情報発信 柳原 寛 ●長沼町グリーンツーリズム 運営協議会会長
第3回 10月6日	北海道の未来を拓く農業の可能性(その現状と将来方向) 竹林 孝 ●北海道農業公社 理事長	第10回 12月1日	日本一の『米コンテスト』を目指して 向山 博 ●蘭越町米-1グランプリinらんこし 実行委員長
第4回 10月13日	JA浜中町の地域農業振興への取り組み ～地域に根差す中小企業として～ 石橋 榮紀 ●浜中町農業協同組合 代表理事会長	第11回 12月8日	国産材時代の到来、輸入材との共存共栄へ 高橋 範行 ●昭和木材株式会社 代表取締役専務
第5回 10月20日	北海道の稲作・水田農業の現状と課題 仁平 恒夫 ●ホクレン農業協同組合連合会 農業総合研究所特任技監	第12回 12月15日	「ローカル力を生かす ～地域連携の価値づくり」 杉野 邦彦 ●株式会社菊水 代表取締役社長
第6回 10月27日	道産水産物の優位性と国内外の流通動向について 菊池 元宏 ●北海道漁業協同組合連合会 代表理事常務	第13回 12月22日	企業が考える農業経営 福永 庸明 ●イオンアグリ創造株式会社 代表取締役社長
第7回 11月10日	「森林未来都市」から「SDGs未来都市」へ 春日 隆司 ●下川町町議会議員	第14回 12月26日	時代とともに変遷する北海道農業の特徴と課題 井上 誠司 ●酪農学園大学 教授
会場／札幌学院大学D202教室(D館2階) 講義時間／13:10~14:40 コーディネーター／山田 智哉(札幌学院大学経済学部 教授) 主催／札幌学院大学経済学部、えべつ市民カレッジ、道民カレッジ連携講座	第15回 1月19日	まとめ 山田 智哉 ●札幌学院大学 教授	

●お問い合わせ先

札幌学院大学教育支援課(経済学部係)

〒069-8555 江別市文京台11番地

☎011-386-8111(内線3212,3227)

[URL]http://www.sgu.ac.jp

2017
(平成29年度)

札幌学院大学経済学部 公開講座 経済学特別講義C 講師紹介

第1回(9月22日) 山田 智哉 ●札幌学院大学 教授

統計でみる北海道の1次産業

埼玉県出身。1999年3月総合研究大学院大学数物科学研究科統計科学専攻博士課程後期過程修了。博士(学術)。2001年4月札幌学院大学経済学部にて専任講師として赴任。2012年8月より現職。専門は統計科学。札幌学院大学では経済統計学などを担当するとともに、セミナーでは学生と様々な現状について統計データを用いて分析している。

第2回(9月29日) 常田 馨 ●帯広市川西農業協同組合 青果部長

十勝川西長いもの挑戦～一貫した品質管理が海外市場で通用するブランド力をつくる

所属：帯広市川西農業協同組合青果部長・広域流通統括。1978年帯広北高等学校を卒業し、同年帯広市川西農業協同組合に入職。現部署は2003年に着任し、2013年より青果部長として青果物全般の販売を統括する。特に「十勝川西長いもの」については、海外輸出販売を担当する。2008年3月世界的にも例の無い農産物の選果場でのHACCP認証取得と、2017年4月にはより高度な品質保証とされるSQF認証取得に係るチームリーダーとして、その任にあたった。

第3回(10月6日) 竹林 孝 ●北海道農業公社 理事長

北海道の未来を拓く農業の可能性(その現状と将来方向)

空知管内北竜町出身。1978年北海道大学農学部卒業。同年、北海道入庁。道庁では主に農政畑を歩み、農政企画、酪農畜産、食品安全対策などを担当した後、十勝支庁長、総合政策部地域振興監、経済部食産業振興監を経て、2013年農政部長(2015年退任)。2015年一般社団法人北海道地域農業研究所特別顧問。2016年から公益財団法人北海道農業公社理事長。

第4回(10月13日) 石橋 榮紀 ●浜中町農業協同組合 代表理事会長

JA浜中町の地域農業振興への取り組み～地域に根差す中小企業として～

1940年生まれ、千葉工業大学卒業後、浜中町で酪農就農、農協青年部長、農協理事、専務理事歴任後1990年組合長に就任。2017年組合長を退任し会長理事となり現在に至る。その間、営農データ可視化のために酪農技術センター設立、新規就農者育成のための牧場開設、事業を地域企業へアウトソーシング、メガソーラー設置など地域の将来を見据えて、農商工連携、地域活性化、環境対策などに先駆けて取り組んでいる。JA管内で生産される生乳は「プレミアム4.0牛乳」や「ハーゲンダッツアイスクリュームの原料となっている。これまでに㈱北海道乳牛検定協会会長、北農中央会理事、ホクレン理事、㈱酪農王国代表取締役、北海道中小企業家同友会釧路支部長など多数歴任。

第5回(10月20日) 仁平 恒夫 ●ホクレン農業協同組合連合会 農業総合研究所特任技監

北海道の稲作・水田農業の現状と課題

神奈川県出身。東京大学農学部。1981年東京大学大学院農学研究科修士課程修了。1982年農水省北海道農業試験場採用。以後、農林水産技術会議事務局、北陸農業試験場を経て、2011年北海道農業研究センター水田作研究領域長、2013年中央農業研究センター農業経営研究領域長。2016年より現職。北海道を中心に、稲作・水田農業の担い手問題について研究を進めている。

第6回(10月27日) 菊池 元宏 ●北海道漁業協同組合連合会 代表理事常務

道産水産物の優位性と国内外の流通動向について

昭和59年3月小樽商科大学商学部卒。昭和59年4月北海道漁業協同組合連合会入会。平成19年関連会社統括室長。平成21年留萌支店長。平成23年稚内支店長。平成25年参事・総務企画部長。平成28年代表理事常務。

第7回(11月10日) 春日 隆司 ●下川町町議会議員

「森林未来都市」から「SDGs未来都市」へ

1981年7月下川町開発審議室。1982年4月北海道開発局農業水産部。1995年1月アメリカモンタナ州立大学(留学)。2002年4月財団法人下川町ふるさと開発振興公社。2010年4月地域活性化伝道師(内閣府)。2012年2月下川町環境未来都市推進本部長。2015年5月下川町議会議員(総務産業常任委員長)。2015年7月NPO法人しもかわ森林未来研究所研究員。

第8回(11月17日) 安孫子俊之 ●江別製粉株式会社 代表取締役社長

変貌する北海道産小麦需要

江別市出身。1995年3月室蘭工業大学情報工学科卒。1997年4月江別製粉株式会社入社。入社以来主に営業部に在籍し、道外への販路拡大期と重なり、自身も西日本方面の拡販に歩く。当時、根室から長崎まで担当していたことが、ささやかな自慢。2016年6月代表取締役社長就任。現在に至る。

第9回(11月24日) 柳原 寛 ●長沼町グリーンツーリズム 運営協議会会長

食育、農業の現場より情報発信

平成27年1月より長沼町グリーンツーリズム会長。平成18年4月人権擁護委員。平成元年1月より16年4月農協理事。

第10回(12月1日) 向山 博 ●蘭越町米-1グランプリinらんこし 実行委員長

日本一の『米コンテスト』を目指して

昭和45年3月北海道立蘭越高等学校卒業。昭和50年4月北山測量設計㈱入社。平成15年9月北山測量設計㈱退社。平成17年7月蘭越町農業委員会委員。平成23年11月第1回米-1グランプリinらんこし開催。平成27年5月蘭越町議会議員(経済建設常任委員)。現在に至る。

第11回(12月8日) 高橋 範行 ●昭和木材株式会社 代表取締役専務

国産材時代の到来、輸入材との共存共栄へ

昭和52年3月北海道大学経済学部卒業。昭和52年4月三菱商事資材部紙貿易課入社。昭和58年6月昭和木材株式会社入社東京支店勤務。平成4年3月旭川本社勤務。平成14年11月代表取締役専務。現在に至る。北海道林産技術普及協会会長。

第12回(12月15日) 杉野 邦彦 ●株式会社菊水 代表取締役社長

「ローカル力を生かす～地域連携の価値づくり」

北海道上川郡下川町出身。札幌西高卒。同志社大学商学部卒。1981年菊水入社。2012年代表取締役社長(現職)。「寒干しラーメン」「有名店ラーメン」「知床そば」等の数々のヒット商品を開発し北海道トップの生麺メーカーとなる(生ラーメンシェア全国3位)。2002年農商工連携のプロジェクトを立ち上げ、地域ブランド「江別小麦めん」を開発。国内先進事例として2006年 地域貢献団体「立ち上がる農山漁村～新たな力」認証。2008年度全国「農商工連携88選」、2010年度「農商工連携ベストプラクティス30」選定。2004年「ラーメン」の始まりを記した『竹家食堂ものがたり』(角川書店)を出版。おもな兼・公職は、江別工業団地協同組合理事長、江別麦の会副会長、江別経済ネットワーク江別ブランドラーメン部会長、江別食育推進協議会委員、江別市公平委員(平成24年度より)、江別市経済審議会委員(平成27年度より)。

第13回(12月22日) 福永 庸明 ●イオンアグリ創造株式会社 代表取締役社長

企業が考える農業経営

兵庫県出身。1995年ウエルマート西日本(株)(現マックスバリュ西日本(株))入社。2006年同社、農産商品部長に就任。2009年イオン(株)アグリ事業プロジェクトチームサントリーリーダー就任。同年、イオンアグリ創造(株)生産本部長兼管理本部長を就任し、2012年代表取締役社長に就任。現在に至る。

第14回(12月26日) 井上 誠司 ●酪農学園大学 教授

時代とともに変遷する北海道農業の特徴と課題

東京都出身。1993年8月東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程中退。同年9月社団法人北海道地域農業研究所研究員。2011年4月酪農学園大学農食環境学群循環農学類准教授。2013年4月より現職。専門は農業経済学。これまで道内各地の農村を訪問し、その実態調査を行った上で、地域農業振興策について検討してきた。

第15回(1月19日) 山田 智哉 ●札幌学院大学 教授

まとめ

プロフィールについては、第1回を参照してください。

受講料は無料で、どなたでも受講できます。人数に制限はありません。事前申込は必要ありませんので、当日直接会場にお越しください。



札幌学院大学